

第4回

住宅で「まち」をつくる

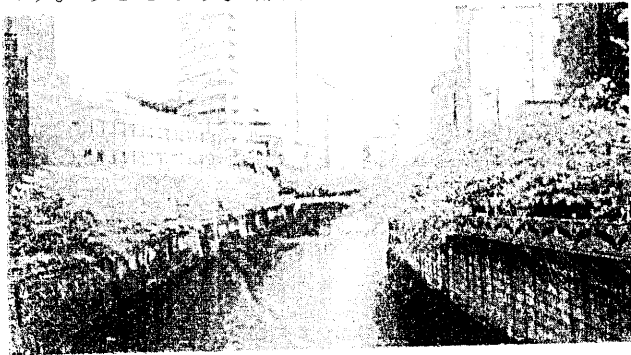


対岸からセルズの全体を見学

4月6日、桜が満開で花見客で大にぎわいの目黒川沿いの交差点のそばに、目黒コーポラティブハウス（セルズ）が建っていました。濃いブルーのフラットタイプのもと、クリーム色のメゾネットタイプ（内部が2階建て）が組み合わせてあり、しゃれたオレンジ色の柱が入口の目印になっています。

第4回のテーマは「住宅で“まち”をつくる」です。都市の街並みにすっきりととけ込んだ外観です。今回は居住者のご厚意で部屋の中まで見せていただけることになりました。

桜と共に移ろう季節を感じて生活するためにと、あえて部屋の向きを北側一目黒川側にし、浴室を南に。おかげで浴室につきもののカビとは無縁だそうです。すっきりとした床暖房付のフロア、窓に面したホームバーカウンター、センスのよいインテリアに女性たちからは「すてき」と感嘆のささやきが。居住者は20代と30代が中心だそうです。気になるのはお値段。標準仕様のもので6千万円、自分の好みに合わせた内装にすると、ほぼ7千万円になるそうです。うむむむ。都会は高い！



オレンジ色の柱とシンプルデザイン

学習会は近くの目黒区民センターで持たれました。街並みに配慮した集合住宅を住民がつくる例として見学した目黒コーポラティブハウス（セルズ）を、行政指導型でつくられたものとしては幕張ベイタウンを例にあげて、講師の方々からお話を伺いました。

セルズに関しては、集合住宅でも都市を構成する一つの建築物である、と意識してデザインされたそうです。確かに駅をおりて目黒通りを歩いてくると、遠くにオレンジ色の柱がくっきりと見え、まちのアクセントになっています。時々美術館と間違っ

てくる人がいるというのもうなずけます。自由設計といってもまるっきりの自由ではバラバラになってしまう、美しいと感じる「建築」にはある秩序が存在している、との考えで、ここでは規則的でシンプルな構造フレームをデザインしたとのこと。外観はどこのブロックも同じように規則的に見えますが、よく見ると、ガラスが違っていたり、窓の取り方が違っていたり、おもしろいほど一つ一つが違っていました。

また内部は家ごとにまったく違うそうです。住み手の注文はホントそれぞれで「生活感が感じられないような設計にして」「らせん階段の家に住みたかった」とか。住居はまさにその人の現在だけでなく将来までの人生設計に密接に関わってくるものなので、設計士と住み手の話し合いが大事で、それが良い設計につながるとのこと。セルズはどちらかと言えば企画者主導型。それでも家をつくることはエネルギーを費やすもの、だから素晴らしいものができるのだろう、と改めて思いました。

私たちのコーポラティブ住宅は？

4回の見学と学習会を通して、さまざまなタイプのコーポラティブ住宅を学んできました。「自分だったら、こんな風になりたい」「運営のやり方をみんなで相談したい」など具体的なイメージも少しずつ抱けるようになってきています。また、初めころは遠慮して初対面の方とは親しくお話しづらかったのですが、何回か顔を合わせるうちに「こういう風に暮らしたいですねえ」「こんなことも考えておかなければね」などと話はずむようになりました。

5回目は1～4回を振り返っての意見交換と実現するための方法の学習。6回目はワークショップ（詳しくは8ページ参照）。コーポラティブ住宅に皆さんがどんなイメージを抱いているのか、そこで何をしたいのか、率直な意見を聞きたいと思えます。意見交換をする中で、自分の中でぼんやりとしていたものもはっきりとしてくるのではないかと思います。楽しみ、楽しみ。（麻生区/渡辺良子）